

それゆけ! メディカル

Lohas Medical

『ロハス・メディカル』関西版

vol. 5
2011年 8月号

Lohas Medical 編集発行/ロハスマディック

チャイルド・ケモ・ハウスの皆さん。
(詳しくは『ニュースレポート』で)

「治りたい」と「治したい」をもっともっと近づける、
医と健康の院内フリーマガジン



乳児を持つ保護者に福音
ロタワクチン
間もなく登場

特別記事

がん 5
抗がん剤、
なぜ効くのか

年間特集



研修医参考資料

編集発行 株式会社ロハスマディア
編集長 熊田梨恵 / 発行人 川口恭
〒107-0062 東京都港区南青山2-2-15 ウィン青山616 ☎03-5771-0073
©ロハスマディア2011(無断転載禁止)

Art Direction & Design : Hosoyamada Design Office
Cover illustration : 宮本ジジ
表紙写真協力@道頓堀・中座くだおれビル "くだおれ太郎"
Printed in Japan 株式会社テンプリント

Dr.長尾の 町医者冥利

兵庫県尼崎市に16年の長尾クリニック。その長尾和宏院長が、意外と知られていない開業医の日々の活動を語ります。

第3回 被災地へ 行ってきました(下)



ありませんか。この準備委員会の名称にもなっている原釜漁港は津波の被害で壊滅しているはず。

聞けば、わざわざ仙台の漁港へ買い付けに行ったそうです。脇には穫れたての野菜も並んでいて、こちら

は地元の出から調達されたようです。新鮮なだけでなく、とても安いです。これだけ魚介類を贅沢に使った汁は、一杯1000円ぐらいしてもおかしくないと思いましたが、それが1000円や2000円で提供されていました。なんとうまいんでしょう。

この朝市は、そもそもは震災前から地域経済の活性化を目的に企画されていたもので、前日の3日に初めて開催されたのだそうです。当初の目的は、原釜漁港で獲れた魚、地元で穫れた肉や米、野菜を使

引き続き、ゴールデンウィークを利用して東日本大震災の被災地へ行って見聞きしてきたことを書きます。

尼崎へ戻る前日の5月4日は、福島県相馬市に入って医師でもある立谷秀清市長に一日密着して仕事を見せてもらうことになりました。前日に市長から、市民が朝市の炊き出しをやっていると聞かされ、市民自身が被災者なのに、一体どういうことかと思いつながら、朝7時前に市役所近くのグラウンドに出かけました。

買い出しして朝市

着いてみると、30人ほどの人たちが、テントを張って笑顔で海鮮汁や焼き魚、てんぷらなどを振る舞っていました。主催は「はらがま朝市NPO準備委員会」だそうです。どんな魚があるのだろうと覗いてみて、驚きました。

新鮮なサンマやイカ、カレイ、タラ、アナゴ、カニ、シジミ、ウナギ、イカナゴ（こちらではコウナゴ）、青海苔、明太子などが並んでいるでは

った様々な料理を振る舞ったり、市場を開いたりすることだだったとのこと。NPOに参加しているのは、ほとんどが漁業関係者です。

会場の一角ではエルビス・プレスリーのような雰囲気男性が「翼をください」をギターを弾きながら歌っていました。涙が出てしまいました。他にも漁師さんが「原釜大漁唄い込み」を披露したり、小学生が復興宣誓の言葉を述べたりしていました。

きつと朝市を提供している側にも、避難所生活の人がいることでしょう。皆、明るく笑ってはいるけれど、心にどれほどの傷や痛みを抱えているだろう。死を覚悟した人だっているだろう。そうした中でも、被災者が被災者を、自分たちの仲間を勇気づけようとしている。この心根は、関西に住む私には考えられなくて、本当にただただ感嘆するしかありませんでした。

さらに驚いたことに、会場に募金箱が置いてありました。こんな所に募金箱を置いて、誰が誰に募金するというのだらうと思いました。しかし皆、当然のようにお金を入れています。被災者が、被災者に募金してました。

後日聞いたところでは、3日から5日までに数十万円も集まって「漁業の復興に役立ててほしい」と市長に手渡されたそうです。本当に驚くしありません。

これは市役所の職員に教えてもらったことですが、相馬は江戸時代末期、二宮尊徳によって、藩財政立て直しと農村振興のための仕法書作成を受けたそうです。二宮尊徳の「報徳仕法」は、「至誠・勤労・分度・推譲」を実践していくことを求めます。「推譲」とは分相応の消費をして、残った分は他に渡していくという考え方だそうで、まさに「推譲」が市民に根付いているということなのかもしれま

せん。

この朝市、初日は700人、4日は2500人が訪れたそうで、今も引き続き毎週土日の8時から14時まで開かれています。機会があったら覗いてみて下さい。

朝からラジオ体操

朝市の会場から市役所へ移動して、また驚きました。休日なのに、朝7時半から職員が全員でラジオ体操をしていました。皆が真剣で、嫌々やっているような素振りは見られません。

市長に聞いてみると、「私たちは学童期から団体行動を刷り込まれて育ってきましたが、その最たるものが夏休みのラジオ体操だったと思います。外国人から見れば違和感のある光景かもしれませんが、非常時に個人主義はなじみません。規律正しい団体行動をラジオ体操が思い出させてくれます。音楽に合わせて全員がそろって手や足を振る姿は

遅しくもありません」とのことです。震災発生後の3週間後から、市役所内の対策本部チームと避難所で1日2回、ラジオ体操を実施しているそうです。

普通、行政は朝8時半ぐらいから仕事を始めると思いますが、職員自身も被災者で、自宅を流されたり身内を失ったりした人もいます。そんな彼らが、休日の早朝から全員集まって、市役所中でラジオ体操をしていました。そして夜も9時10時まで一生懸命に働いていました。ある職員は「時間外(勤務手当)を請求するつもりはない」と言いました。

相馬市の場合、原発周辺地域の住民も大量に避難してきていて、その面倒もみなければなりません。立谷市長の鬼気迫るリーダーシップに負うところも大きいとは思いますが、「自分たちも逃げなければいけ

ないのではないか」というストレスを抱える中で淡々と頑張る職員たちに畏敬の念を持ちました。

生活保護が待つ

さて前回、日本には自然災害に遭った人の生活基盤を保障する法律がないということ、を少し書きました。

阪神淡路大震災の時も、1995年2月の衆議院本会議で寺前巖議員(共産)が「被災者の生活再建なしには復興はあり得ないということ、この立場から、住宅や家財などを失った被災者の生活再建に、住宅、家財、中小業者の営業用資産の損失が償えるよ



立谷市長(左)と。

う、国家による個人補償が不可欠であります」と質問したのに対して、村山首相は「自然災害により個人が被害を受けた場合には自助努力による回復が原則」と、国による個人補償や公的支援を否定しました。「家や車などの個人資産は自分たちで何とかしろ」ということです。

だから、「瓦礫撤去や区画整理、鉄道復旧、住宅建設は行われなかったけれど、個人個人は放ったらかしにされました。若くて力のある人は何とか仕事をしながら復興へ努力できた一方、高齢者や障害者など多くの社会的弱者が生活保護の受給者になりました。



こんな旗がありました。

大阪には約2万人の生活保護受給者がいると言われますが、知り合いのソーシャルワーカーに訊いてみたところ、生活保護から抜けて自立生活に戻っている人たちは年に2%ほどだそうです。

私は、日常的に生活保護受給者を多く診療しています。生活保護自体を悪いと言うつもりはありません。働けない人に生活保護は必要だと思います。

ただし、生活保護は一度受けたら逃れられない「覚せい剤」のようなものだと思います。ほとんど無収入でないことを受けられないため、受けながら稼いで貯蓄していくことができません。車やバイクを新たに持つこともできません。生活状況を報告する義務があるため、常に行政に監視されているようなものです。他にも日常生活に様々な制限があります。

働ける人々

東日本大震災の被災者たちは、働く意欲に溢れています。今回ご紹介した相馬の人たちだけでなく、どの地区でも80代の人たちですら「船があったら今すぐ漁に出る」「農機具があったらすぐ畑に出る」と言っていました。

彼らのように、地に足を着けて働いて来た方々に対して、収入がなくなつたのなら生活保護を、と考えるのは、あまりに失礼だと思います。自ら働いて地域を復興させていく、そんな意思も能力も持った方々のはずです。

相馬市の立谷市長も、被災者に生活保護で対応しようという国が考えているとしたら、「そんなものは国家ではない」と言っていました。

ただし現在、被災者は働きたくても働けない状態です。船がない、農機具がない、職場がない。

このまま放置すると、アル

コール依存症になる人、自殺しようとする人、鬱になる人、認知症の人、たくさん増えてくるはず。これからは孤独死や自殺を減らすことが、医療の最大の目的になってくると思います。

これを傾聴やメンタルケアといった普段の医療のアプローチで何とかしようとしても無理があります。根本の原因を取り除けていないからです。生活が破綻するから、そういう人たちが増えてしまう。彼らの生活を支える法律を作ることが一番大切なんです。結論から言うと、生活保障の立法活動をしている人々、特に法律家への支援が、医療者の最大の使命になってくると私は考えます。

長尾医師による被災地訪問の結果、見えたこと、被災地外の我々が支援できることを、関西版編集長の熊田梨恵と一緒に考えた『共震ドクター』が好評刊行中です。